



われら那高生！ (Vol. 1)

☆真・善・美☆

★和歌山県立那賀高等学校★



1 令和3年度新着任の先生方

今年度、新たにお迎えする先生方をご紹介します。

教頭	坂上 裕 昭 (さかがみ ひろあき) 先生	() は前任校 (箕島高等学校)
事務長	小山 哲 司 (こやま てつじ) 先生	(笠田高等学校)
国語	間所 泰 史 (まどころ たいし) 先生	(串本古座高等学校)
数学	鈴木 隆 雄 (すずき たかお) 先生	(向陽高等学校)
理科	當山 佐 知 (とうやま さち) 先生	(海南高等学校海南校舎)
英語	吉 永 幸 平 (よしなが こうへい) 先生	(粉河高等学校)
理科	山内 環 (やまうち たまき) 先生	(笠田高等学校)
司書	清水 加 代 (しみず かよ) 先生	(向陽高等学校)
英語	石水 百 恵 (いしみず ももえ) 先生	(滋賀短期大学附属高等学校)
英語	西脇 雅 子 (にしわき まさこ) 先生	(大阪府立貝塚高等学校)
英語	塩崎 洋 太 (しおざき ようた) 先生	(貴志川高等学校)
養護	平田 磨 美 (ひらた まみ) 先生	(橋本高等学校)
事務	向井 舞 (むかい まい) さん	
事務	谷口 美 保 (たにぐち みほ) さん	

2 令和3年度始業式を迎えて

県立那賀高等学校の生徒の皆さん、初めまして。今年度(令和3(2021)年度)から校長に着任しました森 勝博(もり かつひろ)です。新着任の先生方共々よろしくお願ひします。

さて、「春」がやってきました。まさに“Spring has come”の好季節です。桜の花の時期はもう過ぎましたが、新年度、新学期を迎える4月は、気持ちの切り替え時、新しい息吹が感じられます。その反面、新型コロナウイルス感染症については、変異株も発生し、まだまだやっかいな存在ですので、日頃の健康観察やマスクの着用、手指消毒などを徹底し、正しく恐れて、日頃の学習活動や学校行事が滞りなく進行できるよう、生徒の皆さんと先生方とで協力して進んでいきましょう。

君たちには、釈迦に説法かもしれませんが、「春」についての話をします。

「春」は英語で“spring”ですが、“spring”には、「春」の意味の他に、「跳ねる」、「跳ぶ」、「はじける」といった意味もあります。また、「泉」や「水源地」という意味もあるそうです。これは“spring”のイメージが「はねる」、「はじける」を想起させるものであるところからきているそうです。

・芽がはじける季節 : 「春」 = spring

・水がはじけ出る場所 : 「泉」 = spring

といった具合です。

“spring” = 「はじける」からの連想で、高校生の君たちには、無限にはじけることができる「バネ」を持ち合わせていると思います。高校生ならではの「バネ」を効かせるからこそ「ホップ」⇒「ステップ」⇒「ジャンプ」とはじけて成長できることも可能になってくるのです。

しかし、そのバネを効かせられるのもしっかりとした足腰があるからで、何事をするにしても足腰の基盤となる基礎・基本が大切だと考えます。排気量が大きい高級自動車であったとしても、足回りであるサスペンションがしっかりしていなかったら、宝の持ち腐れとなってしまいます。人も同様に、はずむようなバネを持ち合わせていても、足腰となる基礎・基本が十分備わっていなければ、自らの才能を発揮することにはつながりません。

新年度、新学期を迎えて、目標を持つことは大切です。しかし、その目標を達成させるためには、それを裏付ける基礎・基本が備わっているかが肝要となってきます。目先のことだけに囚われず、基礎・基本を身につけた上で、目標達成を実現させてください。せっかくの目標も実現しないと無くなってしまいます。

結びに、「春」の話に戻ります。冒頭の“Spring has come”には、単に「春がきた」という意味だけではなく、「今まさに待ち遠しかった春がやってきた」という意味が込められています。

これからも、「学校」で学べることへの誇りを忘れず、新しい学年で、新しいクラスで自分自身を磨き、学習活動や部活動、生徒会活動、学校行事などの様々な場面での取組を積み重ねて、決して誰かから与えられるのではなく、自ら進んで“Spring has come”の気概を持って、今年度の目標を勝ち取ってください。

君たちの今年度の活躍に期待して、令和3年度1学期始業式の挨拶とします。